

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「高志・卓行」の校訓の下、普通科・英語科・理数科それぞれの特色を活かしつつ、お互いが切磋琢磨することにより、高い学力と豊かな人間性を身につけ、次代を見据えた新たな価値観を見出せる学校

教育目標：「よりよい社会の創造に積極果敢に挑戦する人材」の育成

- 1 知的好奇心を持ち、自ら課題を発見し、その解決に向けて努力できる人材
- 2 高い自尊感情を持ち、自らの考えを積極的に発信できる人材
- 3 他者を尊重し、協働して物事をなそうとする人材

## 2 中期的目標

## 1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成

## (1) 「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組

ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進捗で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を75%以上にする。（新規）

イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を80%以上にする。生徒（R1 75% R2 74% R3 83%）保護者（R1 75% R2 75% R3 75%）

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を80%以上にする。（新規）

※ 令和6年度学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を80%以上にする。（新規）

※ 令和6年度学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を80%以上にする。（新規）

## (2) 「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化

ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的な思考力・判断力・表現力を育成する。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を80%以上にする。[新規]

イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施

※ 令和6年度学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を80%以上にする。（新規）

## (3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用

ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。

イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を70%以上にする。[新規]

## (4) ICT活用の推進

ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICTを積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。

※ 令和6年度学校教育自己診断（教職員）において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を95%以上にする。（R1 68% R2 未調査 R3 90%）

## (5) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進

ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立

※ 令和6年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上とする。（R3 724冊）

## 2 安全安心で魅力ある学校づくり

## (1) 生徒指導

ア 「遅刻ゼロ」「自分から挨拶」運動の推進による基本的な生活習慣の習得および規範意識の向上

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を75%以上にする。[新規]

※ 令和6年度において、遅刻件数を1000件未満にする[R1 1152件 R2 1136件 R3 2/25 現在1067件]

※ 令和6年度において、年間皆勤の生徒を全校生徒の35%以上にする。（R1 33% R2 46% R3 37%）

イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を85%以上にする。生徒（R1 76% R2 81% R3 87%）保護者（R1 64% R2 76% R3 75%）

ウ 全教職員・生徒で、ごみの減量および分別化を推進する。

エ 校内清掃活動の日常的実施および地域と連携したボランティア活動を推進し、生徒の相互扶助精神を養う。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を75%以上にする。生徒（R1 72% R2 75% R3 78%）保護者（R1 52% R2 56% R3 57%）

オ 「開かれた学校づくり」をめざし、HPを活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。

※ 学校教育自己診断（保護者）において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に発信している」の指数を80%以上にする。[新規]

## (2) 特別活動（学校行事、部活動）の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成

ア E-Fes（体育大会・文化祭）等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、自主性を重んじた指導が行われている」の指数を85%以上にする。生徒（R1 81% R2 83% R3 85%）保護者（R1 80% R2 77% R3 79%）

イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。

※ 令和6年度において、部活動加入率を90%以上にする。（R1 82.0% R2 84.1% R3 82%）

※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を80%以上にする。[新規]

## (3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成

ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。

イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自他尊重の精神を養う。

- ※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を80%以上にする。生徒（R1 70% R2 72% R3 83%） 保護者（R1 67% R2 67% R3 72%）
- ※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を90%以上にする。生徒（R1 87% R2 89% R3 92%） 保護者（R1 89% R2 88% R3 89%）
- ウ いじめ対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。
- ※ 令和6年度学校教育自己診断（教職員）において、「いじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を80%以上にする。[新規]

(4) 生徒支援の充実

- ア 支援教育推進委員会を中心に生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点から踏まえた支援を行う。
- ※ 配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度を80%以上にする。
- イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。
- ※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を75%以上にする。生徒（R1 67% R2 67% R3 76%） 保護者（R1 54% R2 59% R3 58%）

3 進路指導・キャリア教育の充実

(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実

- ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。
- イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組を促進する。
- ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。
- ※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を80%以上にする。(新規)
- ※ 令和6年度学校教育自己診断（生徒）において、「生徒一人ひとりの能力・適性を活かすことのできるように、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を80%以上にする。 生徒（R1 66% R2 63% R3 70%）

(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上

- ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。
- ※ 令和6年度学校教育自己診断（保護者）において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を70%以上にする。 保護者（R1 47% R2 51% R3 50%）

(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実

- ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。
- イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。
- ※令和6年度学校教育自己診断（教職員）において、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の指数を85%にする。(R1 80% R2 84% R3 80%)

(4) 生徒の希望する進路の実現

- ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、生徒の第一志望を実現する。
- ※ 令和6年度卒業生のうち、第一志望の進路を実現した生徒を70%以上にする。(新規)
- ※ 令和6年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を60名以上にする。(R1 33名 R2 28名 R3 44名)

4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立

(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり

- ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。
- イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。
- ※令和6年度学校教育自己診断において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を75%以上にする。(新規)
- ※令和6年度学校教育自己診断において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を75%以上にする。(新規)

(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化

- ア 時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。
- ※令和6年度までに、教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させ、令和3年度比6%以上減とする。(R3 12月現在 36時間 28分)

※上記、各指標における「指数」とは、各アンケート等に対する「肯定的な意見の割合」をさす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成	<p>(1)「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組</p> <p>ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。</p> <p>(2)「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化</p> <p>ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施</p> <p>(3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用</p> <p>ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。</p> <p>イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。</p> <p>(4) ICT 活用の推進</p> <p>ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICT を積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。</p> <p>(5) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進</p> <p>ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力向上をめざし、年次研修の研究授業に加え、年間2回の公開授業（相互授業見学）を実施し、「授業見学カード」等を活用し、意見交換を行う。</li> </ul> <p>イ</p> <p><b>【理数科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの事象について科学的な視点を身につけるため、1年生宿泊野外実習や探究基礎、2年生理数科先端研修における実験や体験学習等を行う。</li> <li>・科学・技術への関心を高めるとともに、自己の進路や将来像を考えるため、大学教授による講演（レクチャー）を実施する。</li> <li>・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上をめざし、「課題研究」において共同研究および校内発表会を実施するとともに、外部発表会にも参加する。</li> </ul> <p><b>【英語科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる文化や価値観に対する理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力の向上に向け、「英語集中ゼミ（探究活動）」を行う。また、グローバルな視点を身につけるため、講演会を実施する。</li> <li>・英語でのコミュニケーション能力を身につけるため、NET（外国語指導員）との交流をはじめ、姉妹校交流、国際交流への参加を積極的に進める。</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に対する生徒の興味・関心、研究に対する意欲を高め、主体的に学ぶ態度、論理的思考力を身につけるため、1年生を「探究基礎」、2年生を「探究実践」と位置づけ、少人数のチームで「探究活動」を実施する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が「探究活動」の趣旨目的を共有し、生徒の活動を充実させるとともに、指導助言力を向上させ、教科指導等にも活かせるよう、定期的に情報交換会、教員研修を実施する。</li> </ul> <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用して、学習の振り返りを行う。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間3回の全国模試の結果をもとに担任と面談を通じて、学力定着度や学習への取組について確認する。</li> </ul> <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において1人1台端末を利用した教材活用や課題作成を積極的に進めるとともに、臨時休校等に備え、日常的にWeb会議システムを活用する。</li> </ul> <p>(5) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導や探究活動などで積極的に図書館の書籍を活用する。また、生徒のニーズを把握し、オンラインを活用した図書館の書籍紹介やデジタル書籍の貸出を行う。生徒の読書意欲向上に向け、ビブリオバトルへの参加を促進する。</li> </ul>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を80%以上にする。[R3 生徒 83% 保護者 75%]</li> <li>・学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を70%以上にする。（新規）</li> </ul> <p><b>【理数科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を70%以上にする。（新規）</li> </ul> <p><b>【英語科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を70%以上にする。（新規）</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>(3) ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（生徒）において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を70%以上にする。[新規]</li> </ul> <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（教職員）において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を91%以上とする。[R3 90%]</li> </ul> <p>(5) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の図書館貸出冊数を1,000冊以上とする。[新規]</li> </ul>	

<p>2 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒指導                  ア 「遅刻ゼロ」「自分から挨拶」運動の推進による基本的な生活習慣の習得および規範意識の向上                  イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。                  ウ ごみの減量および分別化を推進するとともに、校内清掃活動および大掃除等により、校内美化の意識を高める。                  エ 「開かれた学校づくり」をめざし、HPを活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。</p> <p>(2) 特別活動（学校行事、部活動）の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成                  ア E-Fes（体育大会・文化祭）等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。                  イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。</p> <p>(3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成                  ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。                  イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自己尊重の精神を養う。                  ウ いじめ対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。</p> <p>(4) 生徒支援の充実                  ア 生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点を踏まえた支援を行う。                  イ スクールカウンセラー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。</p>	<p>(1) ア                  ・毎日の挨拶励行に加え、生徒会、風紀委員による挨拶運動を定期的に行う。                  ・年間3回の遅刻防止週間を設けるとともに、丁寧に粘り強く個別指導を行う。</p> <p>イ                  ・生徒全員に各種健診を受診するよう指導する。また、その結果や健康調査をもとに校医の指導・助言を得て、適切に健康指導を行う。</p> <p>ウ                  ・毎日の清掃と大掃除(月に1回程度)を行うことで校内美化の意識を高めるとともに、美化委員による自主的な清掃活動を促進する。ゴミの持ち帰りに関する啓発ポスターの作製・掲示やデジタル化により、ゴミの減量化・分別化に取り組む。</p> <p>エ                  ・本校の授業や学校行事、部活動の様子等について、ホームページで年間400件以上更新する。</p> <p>(2) ア                  ・生徒会執行部のミーティングを定期的開催し、執行部の連携を深めるとともに、学校行事等に関する生徒のニーズを把握し、生徒主体の特別活動の運営を進める。                  ・学年・学科、クラブの枠を越えた、東高校の一員として生徒同士のつながりを実感できる活動の場を創造する。</p> <p>イ                  ・部活動への加入を促すため、校内での表彰掲示や中庭ライブ、クリスマスライブなどの活動発表の場を創出する。                  ・クラブ間のつながり、リーダーとしての意識付け、自主的な取り組みを促すため、クラブ代表者会議を開催し、ひとつの学校としての一体感を醸成する。</p> <p>(3) ア                  ・生徒が安全で安心できる学校生活を送れるよう、生徒・教員アンケートを実施し、生活実態を定期的に把握する。不安な状況があれば、関係各所で連携し、速やかかつ組織的に対応する。</p> <p>イ                  ・各学年において年1回芸術鑑賞を実施する。また、全学年対象の人権講演会を年1回実施する。</p> <p>ウ                  ・いじめ対策委員会を中心に、基本的な対応について教員間で共有するとともに、積極的にいじめを認知する。                  ・事案発生時は、速やかにいじめ対策委員会を開催し、情報共有のうえ解決策を検討し、適切に対応する。</p> <p>(4) ア                  ・「高校生支援カード」等を活用し、配慮を要する生徒を速やかに把握するとともに、生徒、保護者、関係部署で連携し、当該生徒に必要な学習面、生活面等の配慮を行う。</p> <p>イ                  ・スクールカウンセラーによる教員研修を年2回以上実施し、生徒一人ひとりに対する理解を深め、より適切な対応に努める。</p>	<p>(1) ア                  ・学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を65%以上にする。[新規]                  ・年間の遅刻件数を1050件未満にする [R3 2/25 現在 1067件]                  ・一年間皆勤の生徒を全校生徒の31%以上にする。[R3 37%]</p> <p>イ                  ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を80%以上にする。 [R3 生徒87% 保護者75%]</p> <p>ウ                  ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を生徒、保護者ともに70%以上にする。[R3 生徒78% 保護者57%]</p> <p>エ                  ・学校教育自己診断（保護者）において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>(2) ア                  ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数を80%以上にする。[R3 生徒85% 保護者79%]</p> <p>イ                  ・部活動加入率を85%以上にする。[R3 82%]                  ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>(3) ア                  ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を75%以上にする。[R3 生徒83% 保護者72%]</p> <p>イ                  ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を90%以上にする。[R3 生徒92% 保護者89%]</p> <p>ウ                  ・学校教育自己診断（教職員）において、「生徒の問題行動およびいじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>(4) ア                  ・配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度を70%以上にする。</p> <p>イ                  ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を70%以上にする。 [R3 生徒76% 保護者58%]</p>
-----------------------------	--	---	--

<p>3 進路指導・キャリア教育の充実</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実 ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。 イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組を促進する。 ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。</p> <p>(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上 ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。</p> <p>(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実 ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。 イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。</p> <p>(4) 生徒の希望する進路の実現 ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、生徒の第一志望を実現する。</p>	<p>(1) ア ・各学年、年2回の進路講話および生徒の進路希望に応じたコース別説明会・学校別説明会を実施する。 ・本校独自の「進路の手引き」を全校生徒に配付する。また、各学年に必要な進路情報を掲載した「進路ニュース」を年2回以上発行し、全校生徒に配付する。</p> <p>イ ・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用し、キャリアパスポートを学期ごとに作成させる。</p> <p>ウ ・学習支援クラウドサービスを活用し、国公立大学等に関する情報提供を随時教員向け、生徒向けに行うとともに、大阪市立大や関西大などの高大連携による様々なイベントの紹介を一層充実させる。</p> <p>(2) ア ・保護者対象の進路講演会を年2回以上、大学見学会を年1回実施する。また、保護者が相談しやすい環境をつくる。</p> <p>(3) ア ・大学入試等に関する最新情報について、学習支援クラウドサービスを用いて全教職員に適宜配信するとともに、進路指導主事が学年会に出席して入試動向を伝達する。</p> <p>イ ・模試分析会、志望校検討会では、生徒一人ひとりの能力・適性を見極めるため、担任、関係教員の意見を全員で共有する。</p> <p>(4) ア ・定期的に面談に必要な資料提供を行い、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行う。また進路閲覧室の活用を促すとともに、進路に関してきめ細かいアドバイスを提供する。</p>	<p>(1) ア ・学校教育自己診断(生徒)において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>イ ・学校教育自己診断(生徒)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を75%以上にする。[R3 生徒70%]</p> <p>ウ ・学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数を75%以上にする。[R3 生徒70%]</p> <p>(2) ア ・学校教育自己診断(保護者)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数を60%以上にする。[R3 保護者51%]</p> <p>・学校教育自己診断(保護者)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を60%以上にする。[R3 保護者51%]</p> <p>(3) ア ・学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数を81%以上にする。[R3 80%]</p> <p>イ ・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の指数を81%以上にする。[R3 80%]</p> <p>(4) ア ・令和4年度卒業生のうち、第一志望の進路を実現した生徒を65%以上にする。[新規] ・令和4年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を40名以上にする。[R3 44名]</p>	
<p>4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立</p>	<p>(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。 イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。 ウ 有事において、教職員へ円滑な情報伝達を行うとともに、早期解決に向け、組織的に対応する。</p> <p>(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化 ア 時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を進める。</p>	<p>1) ア ・日々の連絡から緊急連絡に至るまで、必要に応じて学習支援クラウドサービス活用することで、業務の効率化を推進する。</p> <p>イ ・年度目標の達成に向けた校務分掌を組織するとともに、学校課題を解決するための教員チームを設置し、教職員の主体的な行動を促進する。</p> <p>ウ ・災害等が発生した場合、管理職から教職員への情報伝達および対策や指示が円滑に行われる組織体制を整える。</p> <p>(2) ア ・職員会議等において、時間外勤務の現状を共有するとともに、特に時間外勤務の多い教員の実態を丁寧に把握し、個別の業務負担を減少させる。</p>	<p>(1) ア ・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>イ ・学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>ウ ・学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>(2) ア ・教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させ、令和3年度比2%以上減とする。[R3 36時間28分]</p>	